上矢作小学校だより

# 大船山

第 2 号
令和 3 年 4 月 16 日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

## 「対話的な学び」と「静けさづくり」

校 長　細江 幸次

穏やかに令和３年度上矢作小学校の教育活動が始まりました。始業前、児童玄関のところで子どもたちを出迎えに立っていると、「おはようございます。」という元気な声がたくさん響きます。月曜の朝、全校朝会が開催されましたが、どの学級も静かに整然と並んで入場することができました。前号でお伝えした「静けさづくり」がもう半分くらいはできているようです。しかし、集会を終え、体育館を出るときには緊張が緩んでしまうのか、少し話声が‥‥。身体測定の時、廊下で順番を待っていると時間を持て余してしまうのか、ついついおしゃべりをしてしまう‥‥。職員室に配付物を取りに来る係の子は、早く自分の仕事をやらねばと気がはやるのか、廊下を走り、けたたましく私の前を去っていく‥‥。子どもらしい学校生活の一コマといってしまえばそれまでなのですが、このところを自分で考えて意図的に静かな時間と空間を生み出せるようにしたいと考えています。

華やかな入学式にも「静けさ」は大切ですね

「動」と「静」のメリハリを意図的に付けられるようになると、学校生活で最も大切にされるべき授業時間中にも生かされるはずです。騒音のない静かな時間と空間をつくり出すことによって、人はストレスから解放され、体の中も外も静かな状態となり、動くべきところが集中して動くようになるという科学的な見解もあります。朝、早起きして、外を散歩すると爽快な気持ちになったり、仕事をすると妙にはかどったりするのもこのこととつながっているのではないでしょうか。

昨年度から完全実施となった学習指導要領には、「主体的で対話的な深い学び」という言葉が数多く登場してきます。深い学びとなるためには「主体的」であることはもう説明の必要はないでしょう。それよりも「対話的」となっているのはなぜなのでしょうか。従来のように話し合い活動に力を入れていくのであれば、「対話を大切にした」とか、もっとストレートに「対話重視」でもよいはずです。そこを「対話的」としたことについて、私は次のように考えます。

＊「**対象との対話**」‥‥‥対象とは自分が学習活動で向き合うもの。国語では教材文、算数では問題文、社会・理科では社会的・科学的な事象を指します。そこでの対話は向き合うものが何なのかを知ることになります。

＊「**自己との対話**」‥‥対象から自分は何がわかり、何がわからないのかを明らかにして、自分なりの考え、疑問をもつこと。

＊「**仲間との対話**」‥‥まわりにいる仲間に自分の考えを伝えたり、尋ねたりして自分の見識を深め、広げていくこと。

従来は「仲間との対話」に力が注がれていた傾向がありましたが、その前にあるべき「対象との対話」「自己との対話」が十分できていないと、いくら仲間と話し合い活動を行ったところで目的とする力をつけることはできません。あくまで仲間との対話は自身の一人学びをより確かなものにしていくための手段であると考えます。話がやや遠回りしていますが、「対象との対話」「自己との対話」をより充実したものにするために、どうしても「静けさづくり」は必要なのです。

**Topic**

## ■始業式、学級開き

４月７日(水)は新年度の始まり、そして新しい担任の先生との出会いの日です。それぞれの学級担任は上矢作っ子との出会いの瞬間を大切に考え、様々な工夫をしながら学級開きの準備を進めてきました。これから一年間、皆さんと一緒に考え、一緒に体を動かして充実した学校生活が送ることができるようにがんばります。よろしくお願いします。

学級担任は以下の通りです。

１年生:石田　楓　　２年生:今井　敬博　　３年生:山内　孝太　　４年生:中嶋　捷太
５年生:大島　紀子　　６年生:藤掛　洋佑　　たんぽぽ:桂川　絵里　　ひまわり:堀川　明信

## ■入学式

４月８日(木)、11 人の上矢作っ子が上矢作小学校の仲間入りをしました。緊張しながらも最後までよい姿勢で話を聞くことができました。これからの学校生活が楽しみです。

入学に際し、PTA より防災頭巾と熊鈴、恵那市より防犯ブザー、岐阜県防犯協会より下敷きと安全笛、恵那地区防犯協会よりおたより袋、損害保険グループより黄色いワッペン、その他にもリーフレット、小冊子等をいただきました。大切に使わさせていただきます。

全校児童 64 人の上矢作小学校で今年度はスタートします。

## ■新しい学習スタイル

４月９日(金)からは通常通りの授業が始まりました。昨年度末、個々に配付されたiPadを活用した授業もチラホラと見受けられました。子どもたちの情報端末機に対する抵抗はほとんどなく、私たちが考えている以上に自由自在に使っている感じがします。学年が進むと仲間と一緒にiPadを見ながら話し合いをする姿も見られました。頼もしい限りです。

新型コロナウイルスの感染状況が第４波の局面を迎えているともいわれています。学習活動に制約ができる中、今後有効な活用を探っていかなければいけません。心強い学習用具として生かすことができるように学校職員も研修を進めてまいります。